令和7年度

宇陀市まちづくり活動応援補助金

成果報告書



宇陀市 政策推進部 市民協働課

令和8年　8月

目　次

「宇陀市まちづくり活動応援補助金」の概要 3

補助金の額 3

審査・評価の方法 3

審査委員 3

各事業の成果　※以下事業名（ ）内は実施団体名

(1)辰砂水銀資料を次世代へつなぐ事業 4

（「菟田の」辰砂水銀資料を遺す会）

(2)宇陀郡と豊臣政権との関係 5

（宇陀市の神話と歴史を考える会）

(3)市民がつくる市政20周年記念事業 6

（紀伊半島交流会議伊勢街道分科会）

(4)大師山石仏群の保全と活用事業 7

（大師管理委員会）

(5)関係人口と地元住民が共創する地域活性化を目指して 8

（NPO幸せのバトン）

(6)向渕の歴史を継承する 9

（向渕の歴史を継承する会）

(7)東大和高原の自然と暮らし体験 10

（東大和高原探検倶楽部）

(8)宇陀おもちゃ病院 11

（宇陀おもちゃ病院）

(9)うだCSDo 12

（うだCSDo）

(10)オレンジ・サロン・ド・AIKA 13

（オレンジ・サロン・ド・AIKA）

(11)榛原きずな広場 14

（榛原きずな広場実行委員会）

(12)木造住宅改修における耐震化促進事業 15

（すこやか住まいの会）

(13)宇陀で学ぶ薬草講座の開催 16

（宇陀の薬草を全国に広める会）

(14)竣工記念と春を祝う「内牧区民の森さくらまつり」 17

（内牧自治会）

(15)森と音楽“Nation of Earth” 18

（宇陀の森と音楽実行委員会）

「宇陀市まちづくり活動応援補助金」の概要

この補助金は、市民が主役のまちづくり並びに地域の個性を生かしたまちづくりを推進し、市の発展に寄与することを目的として、市内で活動する市民団体が自ら企画立案し、実施する事業に要する経費を補助することにより、市民活動の促進を図ろうとするものです。補助対象事業は公募方式により募集し、第三者機関（宇陀市まちづくり活動応援補助金審査委員会）による厳正な審査を経て決定します。

補助金の額

補助金の額は、補助の対象となる経費の総額から当該事業の実施によって得られる収入を差し引いた額とし、50万円を上限とします。事業が継続して必要と認められる場合は、自立・発展性の観点から2年目は40万円を上限とし、3年目は30万円を上限とします。ただし、算出した額に1，000円未満の端数があるときは、これを切り捨てるものとします。

審査・評価の方法

①一次審査（書類審査）

補助金の対象事業として要件を満たしているか等の審査を行います。

②二次審査（公開プレゼンテーション）

以下の基準に基づき審査し、交付の優先順位を決定します。

新規性	・事業内容に新しい発想、アイデアがあるか。 ・自主性をもった企画・運営となっているか。 ・地域活動支援の目的と合致しているか。
公益性	・事業の成果が広く地域に還元されるものか。 ・事業参加の機会が広く住民に与えられているか。 ・市の施策と方向性が合致しているか。 ・応募者以外の市民や事業者、団体等に不利益を与えるものではないか。
必要性	・地域の実情や住民要望に対応したものか。 ・地域の課題解決、あるいは活力向上に有効なものであるか。 ・ほかの方法で代替できないものであるか。 ・経費の使途が適切なものか。
実現性	・目標（達成すべきこと）が明確なものか。 ・関係者との合意形成や応募団体等の内部での実施態勢が整っているか。 ・資金調達の規模や時期に無理はないか。
発展性	・市の支援が終了した後の継続性や自立性、発展性は期待できるか。

審査委員

氏　名	所属・職
野﨑　章	公募委員
山本　保二	公募委員
林　雅子	公募委員
染川　幸史	奈良県地域創造部県民くらし課長
鴻池　昭英	宇陀市役所　副市長

※成果報告会（令和8年8月1日）現在

辰砂水銀資料を次世代へつなぐ事業 【2年目】

補助金額
400,000円

「菟田の」辰砂水銀資料を遺す会

補助事業の実施内容

大和水銀鉱山等を対象にフィールドワークを行い、菟田野・大宇陀地域に残る辰砂・水銀に関する歴史や資料の調査
鉱山跡地には管理者の許可を得て案内板を設置
調査成果をまとめたパネルを制作・展示
中間報告会で専門家による講演を行うとともに、小学生を対象とした鉱山探検イベントを実施

【事業実施の様子】







補助事業の成果と今後の活動に向けて

本補助事業により、大和水銀鉱山等のフィールドワークを通して、菟田野・大宇陀地域に残る辰砂・水銀に関する歴史資源の調査を進め、その成果を案内板やパネルとして整理することができた。鉱山跡地への案内板設置により現地で歴史を知る環境を整えるとともに、パネルの制作・展示や中間報告会での専門家による講演を通して、調査成果を地域内で共有する機会を設けた。また、ホームページの開設やFacebookを活用した情報発信により、辰砂・水銀に関する調査成果を市内外へ発信する基盤を整えた。今後は、辰砂・水銀の古代からの利用について専門家との連携を深めながら調査を継続し、菟田野産の辰砂が古代に使用されたことを裏付ける資料の発見を目指す。また、学校、まちづくり協議会、ボランティアガイド等との連携を進め、小中学生への地域学習につなげるとともに、ホームページやFacebookを活用した情報発信を継続する。

名　称	「菟田の」辰砂水銀資料を遺す会
所在地	奈良県宇陀市菟田野平井953-2
設立の経緯・目的	大和水銀鉱山閉山から半世紀が過ぎ、水銀の歴史が忘れ去られようとしている。「菟田の」辰砂水銀資料を遺す会は、菟田野・大宇陀地域の辰砂・水銀資料の調査やフィールドワークを行い、歴史を記録・保存することを目的に設立された。
主な活動内容	1. 宇陀市内に残る辰砂・水銀に関する歴史や資料を調査・記録 2. 調査成果をパネルや案内板等にまとめ、地域住民や来訪者へ紹介 3. 講演会の開催・WEB等の媒体を通して広く公開

宇陀郡と豊臣政権との関係 【3年目】

補助金額
300,000円

宇陀市の神話と歴史を考える会

補助事業の実施内容

宇陀市と豊臣政権との関わりを中心に、学識者の協力を得ながら地域の歴史について調査・研究
調査内容を冊子にまとめ、講演会やディスカッションを通して地域内外に紹介
茶粥を参加者に提供し、地域の食文化にも触れながら歴史を身近に感じる機会を設けた
ホームページを開設し、調査成果や宇陀の歴史的価値を継続的に発信する環境を整備

【事業実施の様子】







補助事業の成果と今後の活動に向けて

本補助事業により、宇陀市と豊臣政権との関わりを手がかりとして地域の歴史を見つめ直し、学識者の協力を得ながら調査成果を冊子として整理するとともに、講演会やディスカッションを通して共有することができた。調査を進める中で、戦国期に宇陀地域が大規模な戦火に見舞われなかったことなど、地域の歴史的な特徴を改めて捉える機会となった。また、茶粥を味わいながら歴史について学ぶ場を設けることで、文献や講演だけにとどまらず、地域の文化を身近に感じる機会にもつながった。さらに、ホームページを開設し、これまでの調査成果を蓄積しながら市内外へ発信するための基盤を整えた。今後は、これまでの調査を土台として、神武天皇や神武東征など、宇陀と日本の古代史との関わりについて調査を深める。専門家や文化財関係者から助言を得ながら、地域に残る伝承や歴史資料を掘り起こし、その内容を分かりやすく伝えていく。また、観光協会等と連携してホームページを更新し、映像資料も活用しながら宇陀の歴史的価値を継続的に発信していく。

名　　称	宇陀市の神話と歴史を考える会
所在地	奈良県宇陀市菟田野松井85
設立の経緯・目的	宇陀市には神武東征の伝承や戦国期の歴史、豊かな食文化など、日本史において極めて貴重な遺産が数多く息づいている。宇陀市の神話と歴史を考える会は、地域の歴史的価値を学識者とともに調査・研究し、発信することを目的に設立された。
主な活動内容	1.宇陀市に残る歴史や伝承について調査・研究 2. 学識者や専門家等と連携し、調査した歴史資料や研究成果を冊子等にまとめる 3. 講演会や意見交換の機会を設け、地域の歴史について学び、共有

市民がつくる市政20周年記念事業【20周年】

補助金額
500,000円

紀伊半島交流会議伊勢街道分科会

補助事業の実施内容

伊勢街道や神武東征を題材に、宇陀の歴史・文化を市内外へ伝える記念事業を実施
萩原地区で落語会と対談を開催し、伊勢街道にまつわる歴史を紹介
神武東征をテーマとした講演会を開催
DM等による情報発信や、地域の食・文化を取り入れた体験の実施

【事業実施の様子】







補助事業の成果と今後の活動に向けて

本補助事業により、伊勢街道や神武東征を切り口として、宇陀の歴史や文化を楽しみながら知ることのできる機会を設け、市内外からの来訪につながる事業を展開した。落語会では歴史に関する逸話を落語や対談を通して紹介し、歴史に馴染みのない人にも地域の魅力を伝える内容とした。また、神武東征をテーマとした講演会や史跡を巡るバスツアーを実施し、バスツアーでは定員20名に対して37名が参加するなど高い関心が示された。落語会では市内からの参加が約7割、バスツアーでは県外からの参加が約半数となり、市外・県外から宇陀を訪れるきっかけの創出にもつながった。今後は、吉田初三郎が描いた宇陀の鳥瞰図について、堺市博物館等に残る資料を活用しながら調査を進める。また、神武東征をテーマとしたバスツアーについては、各社との連携による商品化を目指し、観光につながる事業として発展させていく。今後も伊勢街道や神武東征をはじめとする地域の歴史・文化を活用し、継続的な誘客と情報発信につなげていく。

名　　称	紀伊半島交流会議伊勢街道分科会
所在地	奈良県宇陀市大宇陀上新1925
設立の経緯・目的	宇陀市に息づく伊勢街道や神武東征の歴史・文化は、市外や県外の多くの人々を引きつける観光資源である。紀伊半島交流会議伊勢街道分科会は、地域の歴史資源を広く発信し、宇陀を訪れるきっかけをつくることを目的に設立された。
主な活動内容	1. 伊勢街道や神武東征等に関する歴史・文化を調査し、地域の魅力として発信 2. 落語会や講演会、対談等を開催し、宇陀の歴史を分かりやすく紹介 3. 歴史的な場所を巡るバスツアー等を実施し、市内外からの来訪機会をつくる

大師山石仏群の保全と活用事業 【2年目】

補助金額
400,000円

大師管理委員会

補助事業の実施内容

石仏群周辺の安全性向上に向け、危険箇所の確認を行うとともに、木製手すりを鋼製へ更新する整備を進めた
令和6年度から3年間で計117mを整備する計画のもと、地域住民の協力を得て鋼材の運搬・設置等を実施
地域で発行する「大師だより」を通して石仏群等の地域資源を紹介し、来訪者への情報発信

【事業実施の様子】







補助事業の成果と今後の活動に向けて

本補助事業により、石仏群周辺の危険箇所を確認し、来訪者が安心して散策できる環境を整えるため、木製手すりから鋼製手すりへの更新を進めた。令和6年度から3年間で計117mを整備する計画のもと、地域住民が鋼材の運搬や設置等に協力することで、地域の力を生かした整備が進められた。これにより、石仏群を訪れる観光客等の安全性を高めるための環境整備につながっている。
今後は、整備した手すり等について定期的な確認や維持管理を行い、安全な散策環境を継続して確保していく。整備後の活用として予定していたスタンプラリーは、熊の出没により実施を見送ったが、今後は安全面を十分に確認したうえで再開を検討し、小学生等も参加できる内容へ発展させる。また、「大師だより」の発行を継続するとともに、市広報等も活用して地域外への情報発信を強化し、石仏群周辺への来訪につなげていく。

名　称	大師管理委員会
所在地	奈良県宇陀市菟田野平井259番地
設立の経緯・目的	地域の大切な財産である石仏群には多くの人々が訪れるが、安全に散策できる環境の維持管理が課題となっている。大師管理委員会は、石仏群周辺の危険箇所を解消し、誰もが安心して参拝できる環境を整えることを目的として設立された。
主な活動内容	1. 地域住民と協力し、整備した施設や周辺環境の維持管理を行う。 2.「大師だより」等を通して、石仏群をはじめとする地域資源の情報を発信する。

関係人口と地元住民が共創する地域活性化を目指して【3年目】

補助金額
300,000円

NPO幸せのバトン

補助事業の実施内容

移住希望者と地域との接点をつくり、宇陀での暮らしを具体的に知る機会として、古民家巡りや空き家ツアー、田舎体験イベント等を継続して実施
ツアーには県内外から参加者を受け入れ、地域の暮らしや住環境を紹介する
SNSや動画を活用して活動や地域の情報を発信

【事業実施の様子】







補助事業の成果と今後の活動に向けて

本補助事業により、移住を希望する人が宇陀の暮らしや地域との関わりを具体的に知る機会を継続して設け、3年間で18家族の移住につながった。古民家巡りや空き家ツアーは継続して開催し、令和7年度には満員となるなど、地域での暮らしに関する情報への関心が示された。参加者は奈良県内にとどまらず、大阪、東京、全国各地から訪れ、空き家探しだけでなく、地域を知り、住民と交流する機会としても活用された。また、田舎体験イベントやSNS・動画による情報発信を通して、移住前から地域と関わる人を増やす取り組みも進めた。今後は、移住後も地域とのつながりを保てる環境づくりを進め、先輩移住者にもイベントの担い手として関わってもらうことで、移住者同士の交流を促していく。空き家については、これまで築いてきた地域住民や知人からの紹介を基本としながら、外部の情報発信チャンネルも開拓する。さらに、参加費や協賛等の導入も検討し、補助金終了後も継続できる活動基盤の構築を目指す。

名　称	NPO幸せのバトン
所在地	奈良県宇陀市室生下田口1462-3
設立の経緯・目的	地方での暮らしへの関心が高まる一方で、移住希望者が地域のリアルな生活や住環境を知る機会はまだ不足している。宇陀での具体的な暮らしを体験してもらい、地域と深くつながるきっかけをつくることを目的としている。
主な活動内容	1. 移住希望者を対象に、古民家や空き家、地域の暮らしを知る機会を提供 2. SNSや動画等を活用し、宇陀での暮らしや移住に関する情報を市内外へ発信する 3. 地域住民や関係者とのネットワークを生かして継続的な移住支援の仕組みを整える

向渕の歴史を継承する 【2年目】

補助金額
400,000円

向渕の歴史を継承する会

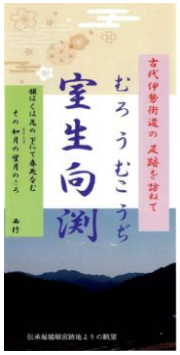
補助事業の実施内容

向渕地区の歴史や地域資源を伝えるため、既存パンフレットを見直し、新たに確認された歴史情報を加えて内容を更新
三重大学名誉教授を招いた講演会を開催し、地元内外から82名が参加
現地で歴史資源を紹介する説明板2枚と道案内板9枚を設置するとともに、夏祭りでは忍者体験や手裏剣投げ等を実施し、地域の歴史や文化に触れる機会を設けた

【事業実施の様子】







補助事業の成果と今後の活動に向けて

本補助事業により、向渕地区に伝わる歴史を整理し、既存パンフレットを改訂するとともに、地域の歴史資源を現地で知るための案内環境を整備した。三重大学名誉教授による講演会には地元内外から82名が参加し、地域の歴史について学ぶ機会を広く設けることができた。また、説明板2枚と道案内板9枚を設置したことで、これまで個別に存在していた歴史資源を訪れる際の案内が整い、地域資源の周知につながった。夏祭りでは忍者体験や手裏剣投げ等を取り入れ、歴史や文化を楽しみながら体験できる機会も設けた。講演会後のアンケートでは、歴史資源を巡るツアーを希望する声も寄せられており、今後の活用につながる関心が示されている。今後は、講演会を契機として朝日文化財団等の外部助成制度も活用しながら活動の継続・発展を図る。また、設置した説明板や案内板について定期的な巡回、草刈り、倒木処理等を行い、良好な状態を維持する。さらに、歴史資源を巡るツアー等を検討し、地域外からの誘客につなげるとともに、会員の確保を進め、地域全体で歴史を継承できる体制づくりを進めていく。

名　称	向渕の歴史を継承する会
所在地	奈良県宇陀市室生向渕878番地
設立の経緯・目的	向渕地区の歴史資源や伝承を、発信することを目的としている。案内板の整備やパンフレットの改訂、専門家による講演会やツアーの開催を通して、地域内外へ魅力を伝える。
主な活動内容	1. 向渕地区に残る歴史や伝承を調査・整理し、パンフレット等を通して紹介 2. 講演会等を開催し、専門家の知見を取り入れながら地域の歴史を学ぶ機会をつくる。 3. 説明板や道案内板を整備し、地域の歴史資源を巡るための環境を整える

東大和高原の自然と暮らし体験 【2年目】

補助金額
400,000円

東大和高原探検倶楽部

補助事業の実施内容

宇陀の自然や食文化を活用し、「食・遊・知」をテーマとした体験型事業を実施
スッポン・ナマズ釣りや調理・試食を行うほか、鹿の生態を学ぶ講座やフィールドワーク、鹿肉・ジビエの調理・試食体験を実施
鹿を題材とした木工作品づくり等のワークショップを行い、地域の自然や食に触れながら学ぶ機会を設けた

【事業実施の様子】





補助事業の成果と今後の活動に向けて

本補助事業により、宇陀の自然や食文化を題材として、参加者が実際に体験しながら地域の資源について学ぶ機会を設けることができた。「食・遊・知」をテーマに、スッポン・ナマズ釣りや調理・試食を行い、地域の水辺に関わる食文化に触れる機会をつくった。また、鹿については生態講座やフィールドワークを通して野生動物と地域との関わりを学び、鹿肉・ジビエの調理や試食を組み合わせることで、自然資源を食の面から考える体験につなげた。さらに、鹿を題材とした木工作品づくり等のワークショップも実施し、地域の自然を多様な形で活用する取り組みを行った。今後は、補助事業終了後も継続して事業を実施できるよう、自走可能な運営体制の構築を進める。スッポン釣りやジビエ体験等、これまで実施してきた事業の内容を充実させ、参加費の設定等による収益確保についても検討する。また、宇陀市ホームページやSNS、口コミ等を活用した情報発信を強化し、市内に加えて県内外からの参加者を呼び込むことで、宇陀の自然や食文化を体験できる機会を広げていく。

名　称	東大和高原探検倶楽部
所在地	奈良県宇陀市室生三本松3948
設立の経緯・目的	宇陀には豊かな自然や独自の食文化が息づいているが、それらを五感で体験し、深く学ぶ機会はまだ限られている。地域の自然資源を「食・遊・知」というテーマで活用し、その魅力と野生動物との関わりを楽しく体験してもらうことを目的として活動に取り組んでいる。
主な活動内容	1. 地域の自然や食文化に触れる機会を提供 2. 自然資源を題材とした木工等のワークショップを行い、体験を通した学びの場を提供 3. SNSやホームページ等を活用して活動を発信

宇陀おもちゃ病院 【新規】

補助金額
215,000円

宇陀おもちゃ病院

補助事業の実施内容

子どもの壊れたおもちゃを原則無料で修理する活動を継続し、これまでに約1,020件の修理に取り組んだ
通常の修理に加え、3Dプリンターを活用して入手が難しい部品を製作するなど、修理方法の幅を広げた
ファイバースコープ等の修理・測定機器を整備し、子どもフェスタ等のイベントへの出張修理や奈良おもちゃ美術館等からの依頼にも対応するなど、活動の機会を広げた

【事業実施の様子】







補助事業の成果と今後の活動に向けて

本補助事業により、子どもたちが大切にしているおもちゃを再び使えるようにする修理活動を継続し、6年間で約1,020件の修理に取り組んできた。原則無料で修理を行うことで、おもちゃを長く使う機会を提供するとともに、修理を通して子どもたちの思い出の品を守る活動につながっている。また、3Dプリンターを活用して部品を新たに製作するなど、既製品の部品だけに頼らない修理方法を取り入れ、対応できるおもちゃの幅を広げた。子どもフェスタ等への出張修理や奈良おもちゃ美術館等との関わりを通して依頼を受ける機会も増え、地域内外で活動を知ってもらうきっかけとなった。今後も修理活動を継続し、各種イベントへの出張にも積極的に取り組む。また、3Dプリンター等の技術を活用して修理可能な範囲を広げるとともに、修理技術を持つ人や活動に関心のある大人への呼び掛けを続け、会員の確保を図る。地域からの依頼にも対応しながら、活動の認知度を高め、継続的な運営につなげていく。

名　　称	宇陀おもちゃ病院
所在地	奈良県宇陀市榛原天満台東3-19-9
設立の経緯・目的	子どもたちが大切にしているおもちゃが壊れた際、修理して再び使えるようにする場や機会が必要だという思いがあった。本会は、思い出の品を原則無料で修理し、物を長く大切に使う心を育むことを目的とし設立された。
主な活動内容	1. 子どもの壊れたおもちゃを原則無料で修理し、長く使えるよう支援する。 2. 3Dプリンター等を活用し、既製部品の入手が難しいおもちゃの修理にも取り組む。 3. 地域のイベントへ出張し、おもちゃ修理を通じた交流の機会をつくる。

うだCSDo【新規】

補助金額
500，000円

うだCSDo

補助事業の実施内容

食育と自然体験をテーマに、エディブル・スクールヤードについて学ぶ映画上映会・講演会を開催し、市内外から約70名が参加した。映画・講演会後のアンケートでは90％以上が満足と回答
親子を対象としたエディブル体験会を実施し、野草観察や野草茶づくり、土に触れるワークショップ等を通して、子どもが自然や食に関わりながら学ぶ機会を設けた

【事業実施の様子】







補助事業の成果と今後の活動に向けて

本補助事業により、食や自然を身近な学びにつなげるエディブル・スクールヤードの考え方を地域に紹介し、実際の体験につなげる機会を設けた。映画上映会・講演会には市内外から約70名が参加し、アンケートでは映画・講演会ともに90％以上が満足と回答するなど、取り組みへの関心を広げる機会となった。また、エディブル・スクールヤードを初めて知った参加者も多く、地域への導入を望む声が寄せられた。さらに、親子を対象とした体験会では、野草観察や野草茶づくり、土に触れる活動等を行い、子どもが自然の中で自ら体験しながら学ぶ場をつくった。今後は、エディブル・スクールヤードの学校教育への導入を目標として、学校や地域との連携を進めていく。うだ夢創の里等との協力により、田植えや草取りなど既存の農業体験についても、作業を行うだけでなく、自然や食、地域について学べるプログラムとして発展させる。また、地域住民や保護者、子どもが畑を介して交流できるコミュニティガーデンの取り組みを進めるとともに、地域農家との連携を図り、継続的な活動基盤を整えていく。

名　　称	うだCSDo
所在地	奈良県宇陀市室生深野969
設立の経緯・目的	子どもたちが自然の恵みや食の大切さを身近に体験し、主体的に学ぶ場が教育現場や地域で求められている。本会は、菜園教育を通して自然と食への関心を深め、豊かな学びの場を創出することを目的として設立された。
主な活動内容	1. 食や自然を題材とした学習・体験の機会を設け、地域における食育を推進する。 2. 映画上映会や講演会、親子向け体験会等を開催し、自然や食について学ぶ機会をつくる。

オレンジ・サロン・ド・AIKA 【新規】

補助金額
500,000円

オレンジ・サロン・ド・AIKA

補助事業の実施内容

地域住民が気軽に集い、食事を囲みながら交流できる場をつくることを目的に、キッチンカーや現地調理、手作り弁当による食事提供を行った
地域や参加者の状況に応じて提供方法を工夫し、キッチンカー事業は3回実施して延べ約120名が参加
自治会や民生委員等と連携し、孤食になりがちな人も参加しやすい環境を整え、世代を超えた交流の機会を設けた

【事業実施の様子】





補助事業の成果と今後の活動に向けて

本補助事業により、地域住民が食事を共にしながら気軽に交流できる場を設け、日常的なつながりを育む取り組みを進めることができた。食事の提供方法は、キッチンカーによる提供に加え、地域での現地調理や手作り弁当など、実施場所や参加者の状況に応じて工夫した。キッチンカー事業は3回実施し、延べ約120名が参加するなど、地域住民が集まる機会の創出につながった。また、自治会や民生委員等と連携し、ひとりで食事をする機会が多い人も参加しやすい環境を整えることで、食事そのものだけでなく、会話や交流を通じた地域のつながりを生み出した。今後は、令和8年度から子どもは無料、大人は100円の参加費を設定し、補助金終了後も継続できる運営体制を整えていく。地域住民から提供される野菜等も活用し、食材費の抑制と地域内でのつながりの形成につなげる。また、自治会や民生委員等との連携を継続し、高齢者や孤食になりがちな人も参加しやすい環境を保ちながら、子どもから高齢者まで幅広い世代が交流できる地域の居場所として定着させていく。

名　　称	オレンジ・サロン・ド・AIKA
所在地	奈良県宇陀市榛原萩原177-35
設立の経緯・目的	地域の中でひとりで食事をする高齢者の増加や、世代を超えて気軽に集まれる居場所の不足が課題となっている。食事や会話を共に楽しみながら、日常的な地域のつながりを育むことを目的として設立された。子どもから高齢者まで誰もが安心して集い、支え合える温かい地域の居場所づくりを進めている。
主な活動内容	1. 地域住民が気軽に集まり、食事や会話を楽しめる居場所をつくる。 2. キッチンカーや現地調理、手作り弁当等による食事提供を行う。 3. 子どもから高齢者まで幅広い世代が交流できる機会を設け、地域のつながりを育む。

榛原きずな広場 【新規】

補助金額
500,000円

榛原きずな広場実行委員会

補助事業の実施内容

榛原地域のにぎわい創出と世代を超えた交流の場づくりを目的に、墨坂神社の夏祭りに合わせて「榛原きずな広場」を開催した
大道芸やステージイベント、露店等を実施し、地域の団体や子ども食堂、保育所等とも連携して幅広い世代が参加できる機会を設けた
榛原恵比須神社では猿回し公演を開催し、子どもから高齢者まで楽しめる交流の場を創出

【事業実施の様子】







補助事業の成果と今後の活動に向けて

本補助事業により、地域の夏祭りや花火大会等が減少する中で、榛原地域に新たなにぎわいを生み出し、子どもから高齢者までが集う交流の機会を設けた。墨坂神社の夏祭りと連携して開催した「榛原きずな広場」では、大道芸やステージイベント、露店等を展開し、地域の団体や子ども食堂、保育所等とも協力することで、地域全体でイベントを支える場となった。また、榛原恵比須神社での猿回し公演では幅広い年代が参加し、世代を超えて楽しめる機会となった。こうした取り組みを通して、地域の子どもたちが楽しめる新たな行事としての位置付けが生まれ、地域の交流やにぎわいづくりにつながった。今後は、地域の子どもたちが継続して楽しめる地域行事として活動を続けるため、開催時期や時間帯についても気候条件を踏まえて検討する。特に夏季の開催については、酷暑による熱中症リスクに配慮し、安全面を優先した運営を行う。また、補助金終了後も継続できるよう、協賛金や参加費の導入を進め、地域団体、子ども食堂、保育所等との連携を維持しながら、多世代が参加できる地域交流の場として発展させていく。

名　　称	榛原きずな広場実行委員会
所在地	奈良県宇陀市榛原萩原1258
設立の経緯・目的	地域の行事が減少するなかで、住民が楽しみに集まり、世代を超えて交流できる新たなにぎわいの場が求められている。本会は、お祭りやイベントを通して地域に活力を生み出し、多世代が笑顔で繋がる機会を創出することを目的として設立された。
主な活動内容	1. 地域のにぎわい創出と住民交流を目的としたイベントを企画・開催する。 2. 地域の祭り等と連携し、大道芸やステージイベント、露店等による交流の場をつくる。

木造住宅改修における耐震化促進事業 【新規】

補助金額
162,000円

すこやか住まいの会

補助事業の実施内容

住宅の耐震化や省エネ、断熱等に関する情報を市民に分かりやすく伝えるため、建築士によるフリーペーパーを年3回程度発行
手配りに加えて新聞折込も活用し、幅広い世帯への情報提供を行った
住宅の耐震化やリフォーム、法改正、防災等を取り上げるとともに、能登半島地震の被災地取材や既存木造住宅の耐震化技術の紹介を行い、住まいに関する啓発に取り組んだ

【事業実施の様子】







補助事業の成果と今後の活動に向けて

本補助事業により、建築士の専門的な知識を生かし、市民が住宅について考えるきっかけとなる情報を継続的に届ける取り組みを進めた。フリーペーパーは年3回程度発行し、手配りや新聞折込を組み合わせることで、住宅の耐震化やリフォーム、省エネ、断熱、防災等、日常生活に関わる情報を幅広く発信した。また、能登半島地震の被災地を取材し、災害を踏まえた住まいの備えについて伝えるとともに、宇陀市文化財課が開発した既存木造住宅の耐震化技術を紹介するなど、地域に関わる住宅情報の発信にも取り組んだ。これらの活動を通して、住宅の安全性や快適性について市民が知識を得る機会の充実につながった。今後は、フリーペーパーによる情報発信を継続し、法改正や省エネ、断熱、耐震化等の身近な情報を分かりやすく提供していく。さらに、紙媒体だけでは届きにくい層にも情報を届けるため、SNS等のデジタル媒体の活用を進める。また、ワークショップや住宅見学等の体験型事業を取り入れ、市民と直接関わる機会を増やすとともに、参加費等による収益確保も検討し、補助金に依存しない継続的な活動を目指す。

名　　称	すこやか住まいの会
所在地	奈良県宇陀市大宇陀下中2211
設立の経緯・目的	近年多発する大震災への備えや省エネ化など、住まいの安全性や快適性を高める専門情報の分かりやすい提供が求められている。本会は、建築士の知見を活かして市民の防災意識を高め、安心な住環境づくりを後押しすることを目的として設立された。
主な活動内容	1. 住宅の耐震化、省エネ、断熱等に関する情報を調査し、市民に発信する。 2. フリーペーパーを定期的に発行し、住宅や防災に関する身近な情報を提供する。 3. 建築士等の専門的な知識を生かし、住宅の安全性や快適性に関する啓発を行う。

宇陀で学ぶ薬草講座の開催 【4年目】

補助金額
200,000円

宇陀の薬草を全国に広める会

補助事業の実施内容

宇陀市が持つ薬草文化や歴史的背景を広く発信し、「薬草のまち」としての認知を高める取り組みを実施
薬草に関する講座・講演会を開催し、全国から講師や出店者を招いて交流を図った
「宇陀松山薬草発酵博覧会」を開催し、薬草をテーマとした学びや体験、地域内外の関係者との交流の機会を設けることで、薬草文化への関心を高める取り組みを進めた

【事業実施の様子】







補助事業の成果と今後の活動に向けて

本補助事業により、宇陀市に受け継がれてきた薬草文化を地域の特色として捉え直し、「薬草のまち」としての魅力を市内外へ発信する取り組みを進めた。薬草に関する講座や講演会では、全国から講師を招くことで幅広い知見に触れる機会を設けるとともに、「宇陀松山薬草発酵博覧会」では全国から参加者や出店者を迎え、薬草を通じた交流の場を形成した。こうした活動を重ねることで、薬草に関わる人々とのネットワークが広がり、市民が地域の薬草文化について知る機会の充実にもつながった。また、宇陀における薬草の歴史や文化を発信することで、地域資源としての薬草の価値を改めて考える機会となった。今後は、宇陀市を全国的な「薬草のまち」として認知してもらうため、薬草に特化した情報発信やイベントを継続していく。薬草農家の高齢化や海外産との価格競争といった課題を踏まえ、日本産薬草の品質面での強みを生かした販路や需要の開拓を進める。また、生産だけにとどまらず、加工・販売までを含めた流通の仕組みを整え、薬草の価値を収益につなげることで、持続可能な薬草農業の実現を目指していく。

名　　称	宇陀の薬草を全国に広める会
所在地	奈良県宇陀市大宇陀西山91
設立の経緯・目的	宇陀市には深い薬草の歴史がありますが、生産者の高齢化等の課題もあり、その価値を地域の産業や文化として持続させていく取り組みが求められている。本会は、「薬草のまち」としての魅力を市内外へ広く発信し、薬草文化を次世代へ継承することを目的として設立された。
主な活動内容	1. 宇陀市に受け継がれる薬草の歴史や文化を調査し、発信する。 2. 薬草に関する講座や講演会を開催し、薬草について学ぶ機会をつくる。 3.「宇陀松山薬草発酵博覧会」等を開催し、薬草を通した交流や体験の場を提供する。

竣工記念と春を祝う「内牧区民の森さくらまつり」【20周年】

補助金額
500,000円

内牧自治会

補助事業の実施内容

令和4年度から令和7年度にかけて実施した整備工事の竣工を記念し、「区民の森桜祭り」を開催地域住民の交流を図るとともに、整備された区民の森を地域資源として紹介し、かぎろい夢バンド等による演奏や式典、テープカット等を実施
イベントの運営に必要な移動式スピーカー等の備品を整備し、今後の地域行事にも活用できる環境を整えた

補助事業の成果と今後の活動に向けて

本補助事業により、令和4年度から令和7年度にかけて進められた区民の森の整備工事の完了を地域住民と共有するとともに、整備された地域資源を活用した交流の機会を設けることができた。「区民の森桜祭り」では、かぎろい夢バンド等による演奏や式典、テープカット等を行い、地域住民が集い、整備の成果を実感できる場となった。また、地域外への大規模な広報を行わない中でも、ワラビ採り等を目的に訪れる人があり、区民の森周辺が地域外からも人を引き付ける資源となる可能性が確認された。イベント運営に必要な移動式スピーカー等の備品も整備し、今後の地域行事に活用できる環境を整えた。今後は、区民の森を地域の貴重な資源として継続的に活用し、地域内外からの来訪者を増やす取り組みを進める。桜やワラビなど季節ごとの魅力を生かした情報発信を行い、観光や交流につなげていく。また、高齢化により地域行事の担い手が減少する中、地域外の人材や団体にも協力を求めながら、地域資源や伝統行事を将来にわたって守り、活用していくための仕組みづくりを検討する。

名　称	内牧自治会
所在地	奈良県宇陀市榛原内牧2146
設立の経緯・目的	長期にわたり整備した「区民の森」を地域の共有財産として活かし、持続可能な交流の場をつくることを目的として設立された。桜祭り等のイベント開催や、季節の魅力を生かした情報発信を進めるとともに、地域の人材や団体とも協力しながら、大切な伝統と豊かな自然を未来へ継承していくことを目指す。
主な活動内容	1. 区民の森を地域資源として活用し、住民が交流できる行事を開催する。 2. 桜やワラビ等、季節ごとの地域の魅力を生かした交流・PR活動を行う。 3. 地域行事を通して区民の森の魅力を紹介し、地域内外からの来訪につなげる。 4. 地域行事に必要な備品を整備・活用し、継続的なイベント運営を行う。 5. 地域住民だけでなく、地域外の人材や団体とも協力し、地域資源や伝統行事の継承を図る。

森と音楽“Nation of Earth”【新規】

補助金額
400,000円

宇陀の森と音楽実行委員会

補助事業の実施内容

自然・音楽・アートを組み合わせた交流イベントを開催し、海外からアーティストを招くとともに、地域の飲食店や子どもたち等が参加するマーケットを設けた
子どもたちによる販売体験では、商品の準備から原価計算まで自ら考える機会をつくり、実践的な学びにつなげた
イベント当日は約100名が参加し、音楽や芸術を楽しみながら、多世代・国際交流を図る場となった

【事業実施の様子】







補助事業の成果と今後の活動に向けて

本補助事業により、自然の中で音楽やアートに触れながら地域の人々が交流できる場を設け、地域の特色を生かしたイベントとして実施することができた。海外からアーティストを招くことで、地域にいながら異なる文化や表現に触れる機会をつくるとともに、地域の飲食店等によるマーケットを設け、住民や事業者がイベントの一員として参加できる環境を整えた。また、子どもたち自身が販売する機会を設け、商品の原価計算等も自ら行うことで、楽しみながら実践的に学ぶ場となった。当日は約100名が参加し、世代を超えた交流に加え、地域と海外との交流を生み出す機会にもつながった。今後は、自然・音楽・アートを組み合わせた特色を生かし、継続的な開催を目指す。地域の飲食店や事業者、子どもたちが主体的に関われる仕組みを維持しながら、多世代交流と国際交流をさらに深めていく。令和8年度は開催を見送るものの、次年度以降の再開に向けて地域との連携体制を整えるとともに、市内外からの参加者を呼び込むための情報発信にも取り組み、宇陀の魅力を広く伝えていく。

名　　称	宇陀の森と音楽実行委員会
所在地	奈良県宇陀市大宇陀関戸444-2
設立の経緯・目的	音楽とアートを通して宇陀の魅力を高め、多世代交流と国際交流の場を創出することを目的として設立された。国内外の芸術家を招いたイベントやマーケットの開催、子どもたちの実践的な販売体験の場づくりを進め、地域住民や事業者と手を取り合いながら、心豊かなコミュニティを未来へ広げていくことを目指す。
主な活動内容	1. 自然環境を生かし、音楽やアートに触れられる交流イベントを開催する。 2. 国内外のアーティスト等との交流を通じ、地域に新たな文化に触れる機会をつくる。 3. 地域の飲食店や事業者等が参加するマーケットを開催し、地域交流を促進する。